

令和2年度英真学園高等学校 学校評価

1. めざす学校像

建学の精神

誠実・勤勉を心がけ、豊かな教養とより深い人間性の育成を目指す

- * 個性や違いを認めて支えあう学園
- * 他人を思いやる心豊かな学園
- * 毎日を肯定的に受け止め、想像力豊かな学園

2. 中期的目標

アジアで活躍する人材の育成

アジアの人々とともに豊かで平和な未来を築く創り手の育成をめざし、生徒とともに教職員も切磋琢磨する学校

1. アジア諸国に興味・関心を持つ

多様な文化・言語に触れ、グローバルな視点で物事を捉える力を養う

2. 情報発信能力を高め、協働的問題解決をはかる力を養う

自らの意見を表現・発信する力、多様な意見を聴き理解する力を養う

3. アジアの中の日本

公共心や規範意識、人権への鋭い感受性と他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高めあう力を養う

4. 主体的・対話的で深い学びの探求

学びへの興味と努力し続ける意志を喚起し、その指導方法を不断に見直し改善する

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [令和3年3月実施分]	学校評価委員会からの意見
学校評価(自己評価) 教職員 調査対象 専任教員・専任事務職員 調査方法 4段階評価	令和2年度学校評価については校務運営委員会を評価委員会とした。

A : よくあてはまる B : ややあてはまる
C : あまりあてはまらない D : まったくあてはまらない

調査項目の分析

今年度より中期的目標を大幅に変更、アジアで活躍する人材を育成するための取り組みを一つの柱として先生方に取り組んでいただいた。目指す学校像および中期的目標に年度当初の方針会議において校長や各部署から提議された重点的な取り組み（重点目標）を加えて32項目にて学校評価（自己評価）を行なった。

肯定的な結果が出ている項目は26項目ある。これは先生方が携わっていることが感じ取れるものや取り組んでいる先生が身近にいる項目が上位を占めている。

建学の精神については70%以上の先生が生徒に対して指導ができていると答えている。特に『個性や違いを認めて支えあう指導』『他人を思いやる指導』については自己評価を80%以上得ている。

生徒の聴く力、意見を出し合う学習環境作りなども高評価を得ているが最も高評価を得たのが公共心や規範意識を高める項目であった。特に教室美化については90%近い自己評価を得ている。

肯定率が低かった項目としては『アジア諸国に関して興味関心を持つ』である。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中期的目標である『アジア諸国に関しての内容』について踏み切れなかった結果であると認識している。学校組織としては、会議の有効性や危機管理マニュアルに沿った安全対策について自己評価が半数は超えているものの評価は低いいため、改善に取り組む必要がある。

危機管理マニュアルを把握し、安全対策に備えられているかの設問に対し「よくあてはまる」が17%と低い数字であった。本来限りなく100%に近い数字でなければ生徒達の安全・学校の安全が守れないと考える。令和2年度は予定していた防災避難訓練が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、感染症対策の意識は持っていたもののその他の防災面においては危機管理の意識が薄れていたように考える。令和3年度はこの状況下での事態発生を想定し防災避難訓練の計画実施をするとともに、改めて全教職員が危機管理マニュアルをしっかりと把握し、安全対策に備えるようにする。

学校関係者評価

外部代表として外部理事・監事、同窓会役員およびPTA役員の方から、学校の状況について意見をいただいた。

- ・挨拶、礼儀を重んじる教育を今後も徹底されたい。
- ・保護者と教員が一体となって教育活動に取り組んでいる。
- ・部活動の充実が感じられる。そのような伝統をさらに積み重ねていてもらいたい。
- ・リモート授業などICT教育の充実を図ってほしい。

3. 本年度取り組み内容および自己評価

中期的 目 標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	達成状況と自己 評価
1 アジア諸国に興味・関心を持つ	<p>多様な文化・言語に触れる</p> <p>(1) 各クラス・各教科において、アジア諸国の文化や言語に興味関心を待たせ、意識させる</p> <p>(2) 図書室では、教員や生徒がいつでも閲覧できるようにアジア諸国の書籍を揃えておく</p>	<p>(1) 教員は、自らもアジア諸国に興味を持ち、アジア諸国に関する知識を授業やHR活動で生徒に情報発信し、生徒に興味関心を持たせる</p> <p>(2) アジア諸国に関する書籍の充実、図書室に「アジア諸国」のコーナーを設置</p> <p>■生徒アンケートを実施する</p>	<p>(1) どれだけ情報収集できたか どれだけ生徒に情報発信できたか</p> <p>(2) アジア諸国に関する書籍の貸し出し数の増加</p> <p>■日々の学校生活において、アジアを意識できたか</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度については取り組むことができていなかったのが現状である</p> <p>「アジア諸国のコーナー」を設置した。20～30名の生徒が積極的に利用していた</p> <p>生徒アンケートを実施した結果、より意識できた生徒は10%程度であった</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 情報発信能力を高め、協働的問題解決を図る力を養う</p>	<p>生徒達自ら課題を設定し、独自の考えを見つけ出し、第三者にその成果を伝える力を養う</p> <p>(1) 多様な意見を聴き理解する力を養う (インプット)</p> <p>(2) 自らの意見を表現・発信する力を養う (アウトプット)</p>	<p>(1) 教員は、HR活動・行事・授業において、生徒達自らが考え、意見を出し合い、まとめる機会を設ける</p> <p>(2) 教員は、HR活動・行事・授業において、生徒がプレゼンテーションをする機会を設ける</p> <p>■生徒アンケートを実施する</p>	<p>(1) 生徒が積極的に意見を出し合えるような学習環境を作れたか</p> <p>(2) 生徒が積極的にプレゼンテーションする学習環境を作れたか</p> <p>■他人の意見を聴き理解できたか 自分の意見を発信できたか</p>	<p>70%の先生が前年度に比べ、より生徒の意見等を出し合える環境作りが出来たと感じている</p> <p>60%強の先生が前年度に比べて学習環境を作ることができたと感じている</p> <p>生徒アンケートを実施した結果、概ね理解することが出来ていると感じているが、より積極的に発信が出来たと感じている生徒は10%にとどまった</p>
---	---	--	---	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 アジアの中の日本</p>	<p>日本が世界から評価を受けている、「時間厳守」や「美化意識」、「災害時における物資授受等の規範意識」「思いやりの精神」について考えさせる</p> <p>1. 公共心や規範意識を高める</p> <p>(1) 欠席・遅刻をなくす</p> <p>(2) 美化活動の徹底</p> <p>(3) マナーを守る ボランティア活動</p> <p>2. 人権への鋭い感受性と他者理解を尊重する</p> <p>(1) 外部講師を招いての人権 HR の実施</p>	<p>(1) 毎月1回、「無遅刻週間」を設ける。生徒会のあいさつ運動の実施</p> <p>(2) 生徒会の美化委員会と協力して美化点検を行う地域清掃活動を行う</p> <p>(3) 教員による登下校指導 生徒会によるあいさつ運動 通学路でのマナー向上のため、地域の方との連携 被災地に対する支援活動 淀川河川敷清掃活動 (CUP)</p> <p>2. 人権意識の育成と人権 HR 活動を通じて他者共生を図る</p> <p>(1) 各学年によりテーマを決めて、外部講師を招いての講演を聴く</p>	<p>(1) 欠席・遅刻数において、前年比減を目指す</p> <p>(2) 机の整頓、ゴミ箱にゴミが残っていないか、黒板まわり等、チェック項目を設ける</p> <p>(3) 登下校時、電車内でのマナーを守れたか ボランティア活動に積極的に取り組めたか</p> <p>(1) 講演のあと、フィードバックにより理解したことを定着させることができたか</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響による出席停止があったため比較できなかった</p> <p>令和2年度は日々の教室美化の徹底が図れた</p> <p>普段のマナーに加え、新型コロナウイルス感染症の関係から一般の方より、より厳しい指摘を受けたこともあった</p> <p>講演後に必ずHR教室で振り返りの時間が確保できた</p>
---	--	---	--	--

	(2)弱者の立場を理解し、助け合いの精神を養う	(2)視覚障害者の講演を聴く 車いす・白杖体験を実施	(2)体験のあと、フィードバックにより理解したことを定着させることができたか	体験後は各HR教室で体験した結果、どのように感じたかを意見交換した。 多くの生徒が車椅子では不自由さを、白杖では見えない恐怖を感じていた
4 主体的・対話的で深い学びの探求	学びへの興味と努力を し続ける意志を養う 各部・各学年等においてコミュニケーションを図り、組織的な指導力を高め、日々の学習活動において、『できた』達成感を共有・蓄積して、生徒と共に探究していく	各教科では、学期ごとに研究授業を行い、教科会議において、授業研究を行う 生徒との日々の学習活動において『できた』達成感を共有・蓄積して、その後のクラス運営や学校作りに役立てる	研究授業、教科での研修会議の回数 e-Portfolioの実施に向けての委員会の設置	毎週1時間の教科会議において授業の研究を行った 人権教育推進委員会および特活指導部が行事や講演ごとにポートフォリオとして残すための準備した

今後の目標

<p>入学した生徒が全員卒業していけるように指導を行なっていく。</p> <p>生徒が充実した学校生活を送れるように、学習活動、生徒指導、特活指導、人権教育、支援教育、キャリア教育の充実を図る体制づくりを目指す。</p> <p>生徒に建学の精神を身につけていける教育の実践を行い、アジアで活躍できる人材の育成を目指していく。</p> <p>生徒たちにキャリア教育を通じて興味・関心を持たせ、全員の進路決定を目指す。</p> <p>規範意識を高め、人権を重んじる生徒の育成に取り組み、いじめのない楽しい学校生活を送れる環境づくりを進めていく。</p> <p>「Classi」を基本としたICT教育を進めていく。</p> <p>ポートフォリオは現在、紙媒体で保存しているが将来は各自のiPadに保存できるよう進めていきたい</p>
